

## 審査の結果の要旨

論文提出者氏名 杉谷 隆

自然保護運動を広義にとらえると、対象となる「自然」が純粹の原生自然から人間の管理下または影響下にある二次的自然に至るまできわめて多様であるし、運動の主体についても、その社会経済的な立場のみならず、環境認識においてもまた多様である。したがって自然保護運動に関する研究方法も多様であるが、本論文は、特に環境認識に着目して、高度成長期以後の日本における自然保護運動の事例を、聞き取り、参与観察、質問紙調査、資料調査等によって詳細に分析し、環境認識の多様性とその変化を解明したものである。

本論文は6章から成る。まず第1章では、自然に対する価値観や自然保護の考え方について批判的に論じることによって本論文の問題意識を示した上で、事例研究によって自然保護運動における環境認識を解明するという、本論文の研究方法を提示した。そして第2章では、日本における環境問題・自然保護運動を歴史的に概観して、それらの特徴が歴史的に変化してきていることを示した。

第3章では、地下水の汚染・枯渇の問題に起因する地下水保全運動の事例を取り上げ、資源としての認識と環境としての認識との矛盾を中心に分析することによって、資源と環境との両義性に基づく限界と、古典的な公害反対闘争的自然保護運動の限界とを明らかにした。

第4章では、立木トラスト運動を中心とするゴルフ場建設反対運動の事例を取り上げ、消費者運動や有機農業運動との関係にも着目しつつ、雑木林の保全に対する環境認識の微妙な差異を明らかにすることによって、公害反対闘争的及び原生自然保護運動的な認識から、新しいタイプの里山保全的・農村体験的な認識への過渡的な特徴を持っていることを示した。

第5章では、人工的に造成された遊水池に生じた湿地生態系の保全運動及び雑木林（里山）の保全運動の事例を取り上げ、生物多様性を中心とする生態系保全の観点に基づく二次的自然の保護という新しいタイプの自然保護運動の特徴を示し、環境認識における価値観の変化を論じた。

そして第6章では、上記の事例研究の結果に基づいて、環境認識の多様性とその変化の過程を整理するとともに、都市と農村との価値観の共有と、人間の管理下にあり人間と共存する二次的自然への関心という、二つの観点から、今後の自然保護運動の方向を展望した。

以上のように、本論文は、環境認識の多様性とその変化に着目し、自然保護運動の事例を詳細に分析することによって新たな環境認識に基づく自然保護の方向を明らかにし、貴重な学術的知見を提供した研究として、高く評価することができる。したがって、本審査委員会は博士（学術）の学位を授与するにふさわしいものと認定する。